

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490300106		
法人名	学校法人「鈴鹿文化学園」		
事業所名	愛 すみよし苑		
所在地	鈴鹿市住吉一丁目23番8号		
自己評価作成日	平成28年8月5日	評価結果市町提出日	平成28年10月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2490300106-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 9 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

公園、学校、幼稚園、商業施設、病院には、利用者が歩いて行ける程の距離にある。住宅街で静かな環境に恵まれている。地域の方が花や取れたての野菜を届けて頂ける環境にある。人的環境として、職員の離職も少なく、介護福祉士の有資格も多く、認知症介護に日々自己研鑽している。隣接する医療福祉専門学校の介護福祉科の生徒の実習、地域の中学生や高校生の職場体験、各種ボランティアも受け入れて利用者との外部との交流が頻回にある。理念でもあるが、家庭的な雰囲気の中で馴染みの人間関係や環境を維持しながら、利用者の人権や尊厳を守り、利用者が心地よいと思える生活を営んで頂ける介護を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに畑や公園、ショッピングモールがあり、生活環境に恵まれており、近所の方が畑でとれた季節の野菜や花を届けてくれる。また、医療福祉専門学校の実習生、中・高校生の職場体験、地域ボランティアの受け入れなど積極的に行われている。認知症の人への対応心得、3つの「ない」と7つのポイントを実践に取り入れ、一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した支援に努めている。職員同士のコミュニケーションが取れていて人間関係が良好であり、協力医との連携により、定期往診、夜間・緊急時対応などの協力体制が築かれている。管理者・職員は、常に資質の向上を目指しながら、理念どおり“家庭的な雰囲気の中で生活する支援”に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい所に掲示し毎日の朝礼時には、出勤職員で唱和している。理念が実践につながるように、会議で話し合ったり、朝礼で施設長や管理者から話をしている。	理念を目につく場所に掲示し、毎日の朝礼、職員会議等で唱和し確認し合いながら実践につなげている。対応の心得3つの「ない」(驚かせない・急がせない・自尊心を傷つけない)を目標に、利用者の人権と尊厳を尊重する支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っている。地区行事の案内を頂くので機会があれば、参加している。近所の方が野菜や花を届けて頂ける環境がある。地域の中・高校生の職場体験を受け入れている。	地域の行事に参加したり、近所の方が畑でとれた季節の野菜や花を届けてくれたり日常的に交流している。また、ボランティア、専門学校の実習生、中・高校生の職場体験などを積極的に受け入れている。中・高校生との交流でお年寄りの表情が非常に良くなる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の認知症対応型通所介護もあり、地域の方の相談も受けている。日常的に見学を受け入れている。職員の向上心もあり、認知症理解は、全員ができている。職員が地域で話をすることがある。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回定期的に開催している。苑での取り組みや利用者の動向を伝え、意見や指導、アドバイスを頂いている。	奇数月毎に開催し、事業所の取り組みや現状報告を行い、出席者からの意見や提案をもらい、サービス向上に活かしている。昨年度は緩和承認で、外部評価がなかったにもかかわらずきちんと6回開催された。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時広域連合との連絡を行い指導をうけている。運営推進会議議事録を提出している。運営推進委員会には、元介護相談員に参加していただいている。	書類の提出や手続きで市役所を訪問したり、広域連合と連絡を取り合い指導を受ける等、日頃から協力関係が築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を組織しており、身体だけでなく、精神的な拘束、言葉での拘束、高齢者虐待等についても会議で議論がなされている。	身体拘束廃止委員会を設置している。会議や事業所内勉強会で全職員が身体・精神的・言葉の拘束、高齢者虐待の弊害について正しく理解し、身体拘束をしない支援に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされ無いように注意を払い防止に努めている。朝礼でも施設長や管理者から話をしている。職員も虐待があってはならないと認識している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度についての知識の必要性を感じ社会福祉協議会、包括支援センターの研修や講演会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には見学して頂き、利用者や家族の思いを十分に聞き、契約時に説明を行い理解し納得して頂いて、契約をしている。解約時にも次のサービスにつて尋ねている。その後の病院や施設に面会に行ったり家族の相談に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談・苦情の窓口を明記し口頭において説明している。家族の面会時、サービス計画書の作成時の相談、モニタリングの場面に置いて、利用者や家族の要望意見をきいている。	家族の面会時にケース記録を示し、モニタリングシートに感想・意見を書いてもらい、支援や介護計画作成に活かしている。利用者・家族から出された意見や要望は、出来る限り運営やサービスの向上に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議、朝礼の場で職員の意見や提案を取り上げて話し合う事がある。年2回の職員の自己評価表に、施設長や管理者や苑への提案を記入出来る。	毎月の定例会議で、職員の意見や提案を聞いている。年2回、職員の自己評価表を基に個別面談を実施している。日常の意見や提案は、朝礼の場で取り上げ話合っている。職員の提案でエアコンの掃除を実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事上、健康上の悩みが蓄積してモチベーションが下がらない様に代表者は声をかけ話しやすい様にしている。職員が資格を取得しやすいように、配慮し、取得した時は給与に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外での研修会へも職員の希望に応じて参加できるように各種案内を事務所に掲示したり、参加を促す声をかけている。独自の「愛カード」を作り研修を奨励しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の研修会に参加している。地域密着型サービス連絡協議会、グループホーム協会に入会している。同業者との意見交換や施設見学に出かけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時に本人や家族に生活歴・職業歴・病歴・生活リズム・要望・希望等を聞いて、フェイスシートやセンター方式に記入している。サービス利用するときに情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時家族の聞き取りをしている。センター方式の記入をお願いしている。困り事・不安・要望等フェイスシート基本情報を家族に確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族に管理者が面談し、自施設で対応できる事と出来ない事を伝えて、他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を一人の人間として尊重し、また人生の先輩であるという意識を持って日常生活の中で教えて頂いたり役割を持って頂き支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や電話で情報交換している。ケース記録を読んで日頃の様子を写真を交えて、話している。遠方の家族には、写真や近頃の様子を手紙にして送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方に訪ねて頂いたり、誕生日には情報を集めて、馴染みの場所や自宅に行っていたいしている。	誕生日には、一人ひとりの希望にそって、昔住んでいたところや働いていたところを訪ねる「思い出めぐり」に出掛けている。思い出の景色を観たり、写真を撮ったりしながら、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	平成27年2月から平成28年3月までに6室（12名）の利用者が変わり、平均年齢も89歳になった。利用者が同士が話をしたり、トイレの場所を教えたり、支え合う場面がみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院に移られた方に対しては、管理者や職員が面会に行き経過をフォローし相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で傾聴しながら、場面場面での言葉を、職員がケース記録に記入している。担当者ならびに、管理者はケース記録を読んでいる。困まっているときは、カンファレンスで検討している。	担当者が日常生活の中の「言葉や場面」をそのままケース記録に記入して、職員間で共有している。困難な場合は、カンファレンスを実施し検討している。一人ひとりの思いや希望を聴き、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式、フェイスシート、日々の記録を読むことで職員や家族で情報の共有ができています。家族知人の面会時に在宅時での生活の様子を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活のなかでの言動や行動、様子を時系列でケース記録に記載している。バイタル表便通表食事摂取量等の記録を読むことにより、現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族計画作成とモニタリングを実施している担当職員はモニタリングとアセスメントシートを実施し個人ファイルに残している。医師、薬剤師、看護師にも相談にのって頂いている。	担当職員のモニタリング・アセスメント記録を基に、計画作成担当者がモニタリングを実施し、本人・家族・職員・医師・看護師などの意見を反映させて、介護計画を作成している。3ヵ月ごとに介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の記録を個人ファイルに残し気づきや工夫を申し送りノートに残したり、朝礼の申し送りで情報共有しており、メモ等で計画作成者に職員から提案や工夫したこととの報告連絡がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望は、可能な限り対応できるように検討する。病院への受診は対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する専門学校の介護福祉科の生徒。音楽ボランティア、いきいきボランティアが来苑している。花卉、盆栽、メダカ等と自由に触れ合う事が出来る場所があり、季節を感じながら生活できる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1km距離内にかかりつけ医がいる。月2回の往診がある。皮膚科や外科などの受診に対応している。	利用者全員が事業所の協力医がかかりつけ医である。月2回の往診、夜間・緊急時対応は協力医と協力体制がとれている。歯科・皮膚科などの受診は、家族の希望で職員が同行支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、併設の認知症通所介護に週2回午後から勤務している。情報や気づきを伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療を要する利用者には、管理者や職員が毎日病院に出向き情報を得ていた。家族の了解を得て、フェイスシートやバイタル表便通表などの資料を渡している。退院時には指導を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所事前面談に重度化した場合や終末期のあり方を家族にきいている。サービス計画書の説明時にも「意向」を聞いている。見取りの研修会には、参加している。	入居時に、事業所の重度化や終末期の対応について説明している。段階ごとに家族の意向を確認し、医師など関係者と話し合い、方針を共有しながら支援している。他事業所と看取り介護勉強会を実施し職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応マニュアルや急変時や事故発生時の連絡網は作成している。応急手当や急変時の対応を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、消化訓練は実施している。自治会や周辺住人にも協力をお願いしている。同じ法人の学校関係者の協力体制もある。	年2回、火災・地震の昼夜間を想定した防災訓練を実施し、通報・初期消火・避難誘導訓練を行っている。自治会と協力体制が出来ており、通報は拡声器で行うなどの指導を受けている。また、水・食料品・パット・ヘルメットなどを備蓄している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応には、誇りやプライバシーを損ねないように十分注意を払っている。日常的に朝礼や会議で人権と尊厳について話をしている。	認知症の人への対応の心得、3つの「ない」を実践に取り入れ、一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した対応に努めている。管理者は日常的に「人権と尊厳」について話しをして、職員の不用意な言葉に気づいたらすぐに注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に本人が要望や希望を表現できやすいよう傾聴したり、環境を工夫して話しやすくしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制・制止をせずに利用者個人の自己決定を尊重して個人の能力や希望に応じた支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に希望の方だけ理容師の出張サービスを受けている。化粧品を持ち込まれて化粧されている方もいる。スカートで過ごされる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、台拭き食器拭き下膳等能力に合わせてしていただいている。食欲のない利用者には、好物や形態を工夫して提供している。おやつは手作りも多い。	食材調達・メニュー作成は外注だが、調理は職員がしている。利用者が下ごしらえや後片付けを手伝っている。利用者の状態や嗜好でメニューを変えたり、おやつを手作りして、食事を楽しめるように工夫している。食器は懐かしい陶器の食器を使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食記録している。個人にあわせて麦茶緑茶スポーツ飲料OS-1等で水分の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、居室やホールの洗面台で口腔ケアを実施していただいている。義歯や部分入歯は夜間に消毒液につけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便通表を作成して時間で記入している。排泄パターンをつかみ、トイレでの排泄や自立が出来るように支援する事の大切さを認識している。	排尿・排便パターン表の記録から一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ・誘導を行っている。利用者の半数以上が、布パンツ・リハビリパンツとパッドを使用しながら、トイレでの排泄である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬に頼らずに排便出来るように食事、バナナ、牛乳、ヨーグルト、寒天等で工夫している。腹部マッサージや運動で自然排便に取り組み結果をだしている。夜勤者の申し送りで3日間以上排便を確認できていない方を報告している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回以上は入浴している。時間帯は、午前中が多い。希望があれば、個別に違う時間帯の入浴は可能である。浴槽に入る事が困難な利用者は機械浴で対応している。ゆず湯、しょうぶ湯、ヨモギ湯等や入浴剤で楽しんでもらっている。	週3回以上、午前中に入浴支援を行っている。希望があれば、夜間の入浴も可能である。一般浴が困難な方は機械浴で対応している。ゆず、しょうぶ、入浴剤などを入れて、利用者が入浴を楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床の時間は利用者のペースに合わせている。昼間の傾眠が目立ち夜間の睡眠に影響が出そうな時はレクや運動への参加を促し、安眠の支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋を綴り、日付、期間が確認できるようにしている。確実な服薬の確認が行えるように、チェック表を記録、与薬者が押印している。主治医の処方箋が変更になった場合申し送りノートに記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な分野を活かして書写・計算・ことわざ・格言・塗り絵・ゲームに参加している。食事の下ごしらえ・雑巾がけ・食器拭き・洗濯たたみ・おしぼり作り等個人の能力に合わせて家事を分担して自信をもって生活をして頂く支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者と散歩に出かけたり、近くの商業施設に買い物にでかけている。お花見などの外出活動時に家族が同行して頂けるような協力がある。誕生日には、思いでの地や好物を召し上がって頂く様にしている。	その日の希望で散歩やスーパーに買い物に出かけたり、家族の協力で季節の花見などに出かけている。誕生日には一人ひとりの希望を聞いて、思い出の場所を訪ねたり、ラーメン・寿司などの好物を食べに行っており、出来るだけ戸外に出かけられる支援に取り組んでいる。	外出は、戸外の刺激を受ける場として非常に大切である。「思い出めぐり」行事の継続と、近所に出来る「認知症カフェ」への外出支援を期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理をできる利用者はいない。医療費・散髪代等の代金は、管理者が金庫で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がしたいとの希望があれば、随時対応出来るようになっているが、耳の遠い方が多く、とりつぐことが多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と共に作った季節感のある作品が飾ってある。行事の写真や日常のほほえましい写真もある。近所の方から貰ったお花も飾っている。夏の西日が当たる居室には、簾をかけている。	居間兼食堂は、天窓から光が射し込んで明るく、檜の大黒柱が自然と木の温かさを感じさせ、利用者の笑顔の写真を、A4サイズに拡大して壁に飾ってある。ユニットテーブルを組み替えて、ゲームや創作を楽しんだり、ソファで会話をしたり、居心地よく過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士がTVや新聞の話題で話をしている。トイレの場所がわからない方に案内されたり、お互いに労わっている姿がみられる。自室に話し相手を招かれて話される場面がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での馴染みの品や家具を持ち込んで頂き、居心地の良い居室が確保できるように配慮している。自分の作品や家族の写真を貼り安心して頂ける環境を作っている。	ほとんどの居室はベッドを設置しているが、利用者の希望や身体状況に合わせて、畳部屋も用意されている。利用者の作品や家族の写真などが飾られていて、それぞれが落ち着いて過ごせる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が居室を認識しやすいように、表札を掲示している。各所に手すりを設置して安全な生活が出来るようにしている。		